



令和2年産に向けて



(本年産の課題を踏まえ、翌年産に備えましょう!)

- 令和元産水稻の作況は、10月15日現在で大分県全体で85（大分市・由布市を含む湾岸地域で82、臼杵市を含む南部地域で86）の「不良」でした。主な要因は7～8月の日照不足、8～9月の台風による倒伏、9月のトビイロウンカ多発と考えられます。
- 農閑期は翌年産への助走期間です。本年産の栽培管理を振り返り、収量・品質向上を確実なものとしましょう。

1. 農閑期の雑草・害虫対策 ～多発の元を絶つ好機です！～

※ポイント

1) 雑草防除 *稲のない時期にこそ徹底対策

- ①非選択性除草剤（ラウンドアップ等）を散布し、根まで枯らす。
- ②田面をやや深めに耕起し、雑草の地下茎等を外気にさらす。

2) スクミリングガイ（ジャンボタニシ）駆除 *寒さに弱い特性を利用

- ①田面を耕起し、土中の貝を作土ごと粉砕する。

*作業する場合の

- ・トラクターの走行速度 **低速** 🐢
- ・耕うんロータリーの回転速度 **高速** 🐇

- ②侵入路である水路に堆積した泥をさらい、貝を外気にさらす。

3) いもち・ウンカ類への備え *不作を繰り返さないように

- ①栽培管理作業の確認（箱苗防除の徹底、本田防除の時期・回数）
- ②防除薬剤の見直し及び事前準備（水稻栽培暦の再確認を！）

2. 地力保全・増進対策 ～圃場に栄養を！～

※ポイント

1) 土壌改良材施用

- ①施用は収量・品質の伸びない圃場から（施用前の土壌分析を行うとより効果的）
- ②施用後は、すみやかにすき込むこと

2) 有機物施用

- ①圃場に残った稲わら等は、焼却せず全量鋤込む（焼却と病害虫防除は無関係！）。
- ②堆肥を施用する場合は、農閑期に鋤込み作土と十分なじませることが重要（参考）堆肥・土壌改良材の例

資材名	種類	成分	施用量/10a
みのりS	堆肥	牛糞等	500kg
スーパー堆肥			
ケイカル	土壌改良材	ケイ酸、苦土	150kg
ミネラルG		ケイ酸、苦土、鉄分	200kg
とれ太郎		ケイ酸、苦土、リン酸	60kg
土改王		ケイ酸、苦土、リン酸、カリ	45～90kg

*豚糞・鳥糞堆肥を施用する場合は、窒素成分が過剰となりがちです。これらを施用する圃場では、令和2年産基肥の化成肥料の施用量を調整しましょう。